

## 秦野盆地水理構造調査ボーリング

本市では、「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に基づき、平成19年度から神奈川県水源環境保全・再生市町村補助金を活用し、有機塩素化学物質の浄化を実施するほか、モニタリング事業を通じて、「水循環モデル」を構築するなど、地下水保全対策を推進してきました。

今年度からの第3期5か年計画においては、従前の事業を継続するほか、秦野盆地内の堆積層下部及び基盤岩までの調査ボーリングを行います。新たに水理(地質)構造とその特性を把握することにより、現行の水循環モデルの完成度を高め、また、調査ボーリング後は地下水位観測孔として整備し、今後の地下水位の監視を継続実施することで、地下水保全を担う施設として活用する予定です。このように調査目的で200m級のボーリングを行うことは全国的にも珍しく、地質学的にも貴重なデータとなりえると考えられます。

### 1 工期

平成29年7月から平成30年2月まで

ボーリング工事は8月から約4か月を見込んでいます。



### 2 場所

秦野市カルチャーパーク内（秦野市平沢148番地）

秦野盆地内で基盤深度が最も深いとみられる場所を選定しました。

### 3 概要

これまで水理(地質)構造に関する情報が不足していた盆地内堆積層の下部及び下位の基盤岩の構造、水理特性について情報を取得するため、口径86mmのオールコアボーリングを実施します。

ボーリング孔を用いて、透水性等を把握するため、透水試験、電気検層、孔内微流速想定を実施します。

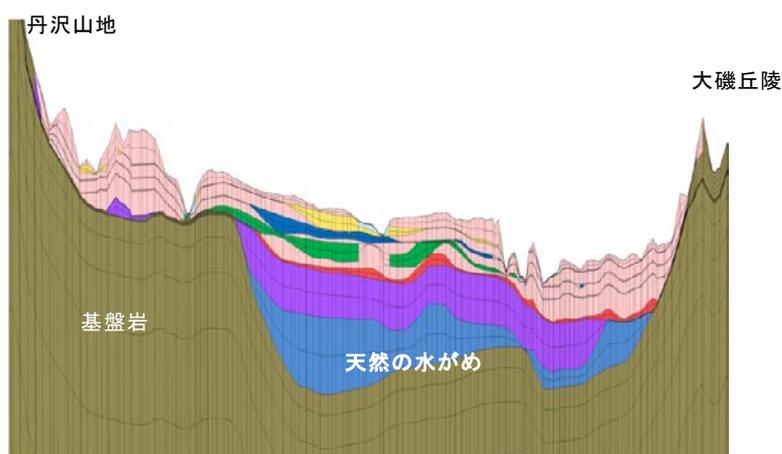
## 4 効果

これまで、盆地内で基盤岩に達した調査ボーリングを実施していないことから、堆積物の最下部の層相については、不明な点が多く残っています。

盆地形成の当初に急速な沈降があれば、粘土層などの難透水層が堆積している可能性がある一方、盆地内の地下水観測結果による水位分布では、盆地中央部で勾配がかなり小さいことなどから、堆積層の下部に透水性の高く厚い層が広がっている可能性が示唆されています。

現在、地下水賦存量は芦ノ湖の約1.5倍にあたる2.8億トンとされていますが、調査の結果によっては、この数字が変わる可能性もあり、今後、災害や天候による渇水も含め、秦野名水の利活用を検討するに当たって、極めて重要なデータを収集する調査です。

### 【参考】 秦野名水を育む天然の水がめ



丹沢山地と大磯（渋沢）丘陵に囲まれた秦野盆地は、その地下構造が地下水を貯めておく「天然の水がめ(地下水盆)」となっています。昭和45年からの地下水調査によって、このような構造が明らかになったことで、一つの器の中の水を分け合っているという市民共有の財産としての認識が確立しました。ただし、盆地中央部で基盤まで到達しているボーリングがないため、この図の深層部については電気探査の情報によるもので、基本的に推定によるものです。

### 問い合わせ

環境産業部環境保全課地下水・環境指導担当 電話0463(82)9618